

令和7年度上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第1回重心・要医療的ケア連絡会	参加者数	40 人	会場	伊那市役所 多目的ホール
	日時	令和7年11月21日(金) 10:00～11:30				
主 テ ー マ	1. 社会資源の共有と連携について 2. 重心・医ケア児者の入浴実績のある事業所より発表 3. 意見交換 4. その他					
	<p>1. 社会資源の共有と連携について</p> <p>①サービス利用に至るまでの流れと連携について</p> <ul style="list-style-type: none">・重心・医療的ケア児・者の入浴課題を連絡会で取り上げ事業所へ呼びかけた結果、資源拡大に繋がった。・昨年度更新した医ケア児者の社会資源表（上伊那圏域自立支援協議会 HP 記載）に入浴の項目を追加している。・各事業所の入浴空き状況を平等に共有するため、事務局から伊那養護学校の医療的ケア児等コーディネーター・各市町村担当・相談支援専門員に情報提供を行う体制案を作成した。 <p>②生協総合ケアセンターみのわ「介護事業所における医ケア児の受け入れについて」</p> <ul style="list-style-type: none">・県内には 508 人の医療的ケア児が地域で暮らし、保護者からは「南信地域では受け入れ先が不足している」との声が寄せられている。特に入浴支援が不足している状況を受け、上伊那医療生活協同組合は今年10月より「ケアセンターみのわ」にて入浴の受け入れを開始。利用開始に至るまでに学習会や入浴対応している他事業所への見学、緊急時対応や相談先の明確化などを行う。また、職場会で進捗共有を行い、質問や不安要素については速やかに解消できるよう対応した。法人の設備や小児科医・看護・介護・リハビリスタッフ、地域医療機関との連携体制を活かし、利用開始前から家族との面談や見学を通して関係を構築している。利用者の状態を多角的に把握し、丁寧な関わりや振り返りを重ねることで家族が安心できる体制を整えている。 <p>③フラワーハイツより情報提供</p> <ul style="list-style-type: none">・老人保健施設のため医師・看護師・介護士・リハビリスタッフが在籍。基本は相談支援専門員から申込を受け多職種で検討し利用契約に至っている。多数の受け入れは困難だが現在入浴の空きあり。利用者が必要とされるケアおよび機能訓練を中心としたサービスを提供している。 <p>2. 重心・医ケア児者の入浴実績ある事業所より発表</p> <p>①小規模多機能型居宅介護 共生ホームなの花</p> <ul style="list-style-type: none">・乳児から高齢者まで現在 16 名が利用中。過去に生後 10 か月の乳児を受け入れた実績もあり。不安も大きかったが「自宅で生活できているなら専門職がいる施設内でも過ごせるはず」と判断し、14 年間利用された。障がい者を特別なものとして扱うのではなく、誰もが同じ空間で共生することが相乗効果を生むと考えている。医療的ケア、酸素吸引、機械浴、宿泊等、てんかんやこだわりの強い利用者・家族の希望に可能な限り応え、安心して過ごせる支援体制を重視している。 <p>②有限会社 わが家</p> <ul style="list-style-type: none">・指定小規模多機能型居宅介護が 2 事業所、指定看護小規模多機能型居宅介護が 1 事業所あり、それぞれ基準該当生活介護の指定を受けている。これにより、介護保険利用者とともに、重度障がい者や医療的ケアが必要な児者の日常生活の支援やサポートを行っている。					

	<p>3. 意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の取り組みと各事業所の提供サービスのすり合わせが大切に感じるが、医療的ケア児は専門用語も多くどこまで情報を伝えられるのか難しさを感じる。 ・上伊那地区の南方は往診できるドクターが少なく困っている。医療の課題が大きいと感じる。 ・医療的ケア児等コーディネーターが決まったらどのように流れが変わるのか、状況に応じたサービスを提供できるか課題を感じる。 ・医療的ケア児等コーディネーターの名簿があれば情報を共有しやすいと感じるが現在どのような状況か。 <p>➡R8 各市町村配置目標により市町村によってさまざま。事務局で確認し公表してもよければ病院等関係機関に共有していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特養の相談員として業務に従事する中でニーズの変化を感じる。障がい福祉と介護福祉は類似点が多いにもかかわらず制度や窓口が分かれている現状から、好事例のように両者を一体的に提供する共生型サービスが基盤となっていくことが望ましいと感じた。 <p>4. その他</p> <p>意見交換の中で防災体制に関する意見や看護師確保の課題が挙がった。</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業所の好事例（医療的ケア対応や共生型支援など）を共有した。 ・意見交換により医療体制の課題や防災体制に関する課題が挙がった。
次回	今年度は開催終了